

学力向上に向けた取組を見直し、“質の向上”にチャレンジ！

西部教育事務所 管理主監 上原 永次

平成27年度も残りわずかとなりました。今年度も多くの学校を訪問し、授業を参観させていただきました。先生方がとても熱心に、子どもたちの指導に当たっていることがよく分かりました。また、ほとんどの学校において学力向上計画の下、学校全体で学習規律を徹底し、学力向上委員会を定期的に開催して組織的・計画的に学力向上に取り組んでいる様子が見られます。それぞれの学校の学力向上に対する意識も高まっていると感じました。そして「確かな学力」研究推進校の5校には、子どもが主体となった課題解決型の授業等の公開を通して、授業づくりのポイントを西部管内に発信していただきました。

それぞれの学校で「学力向上の形」ができあがりつつあると感じているところではありますが、年度末のこの時期にもう一度自校の学力向上に向けた取組を以下に示す視点を参考にして見直し、さらに「質の向上」を図っていただければと考えています。

<視点1> 子ども主体の授業づくりの推進 …… 子どもたちが解決すべき課題（めあて） になっていますか？

子ども主体の授業づくりに向け、「課題（めあて）→自力解決→学び合い→まとめ振り返り」といったいわゆる学習過程スタンダードを意識した授業が行われています。しかし、課題（めあて）を提示する段階で教師が「今日のめあては・・・です」と一方的に示している場面をよく目にします。そして課題（めあて）が「・・・について考えよう」や「・・・を調べよう」といった行動目標のみで、考える内容が示されていないものも多くあります。

ぜひ、教師が示した問題を基に子ども自身がこの時間に解決すべきことを考え、教師とのやりとりの中で課題（めあて）をつくり、それを解決していく授業にしたいものです。子どもが主体となって課題を解決する授業となるように「・・・はどのようにしているのだろうか」や「・・・にはどのようにすればよいのか」など、問いのある課題（めあて）づくりや提示の仕方について工夫し、授業の質的な改善を図ってみたいかがでしょうか。



<視点2> 学びを実感させる「まとめと振り返り」 …… 自力解決に時間をかけ過ぎていませんか？

学校訪問に際し、事前に指導案をいただき、拝見いたします。「いい授業になるな」と期待を膨らませて教室に向かいます。

しかし、実際に授業を見せていただくと、指導案の展開の「3分の2」ぐらいのところでチャイムが鳴り、授業が終わってしまうことが非常に多いのです。「まとめと振り返り」までしっかり1時間に収めるようにし、学習内容を定着させ、思考力や表現力、さらには活用する力も1時間の授業の中で育て伸ばしたいものです。全員ができるまで待っている場面がよくあり、自力解決に時間をかけ過ぎているようです。時間を示し、効果的に机間指導を行って学び合いにつなげるなど、テンポよく全員で課題解決が図れればよいと思います。「まとめと振り返り」を確実にいき、時には定着問題に挑戦させるなど実感を持った理解をさせていくことが大切です。



<視点3> 「評価資料集」の計画的な活用 …… 補充・発展に活用していますか？（小学校）

全国学力・学習状況調査の結果を分析・活用し、自校の課題解決に取り組んでいただいているところですが、その手立ての一つとして県教育委員会が作成・配付した「評価資料集Ⅰ（H27.3）・Ⅱ（H28.1）」を活用していただきたいと考えています。この「評価資料集」を時々活用しているという学校はあるようですが、学力向上計画に位置付け、計画的・継続的に活用している学校はまだ少ないようです。

思考力・表現力を伸ばしていくにはたいへん効果的な教材であると考えます。学力向上コーディネーターが中心となって学校で活用しやすい方法を考えていただければと思います。例えば、「①朝学習などに位置付けて使用する。②週末の家庭学習の課題として使用する。③単元テスト後の追加問題として使用する。」など、授業の内容を補充・発展させ、学力の向上につなげていただきたいと思います。

これらのことを参考に、自校の学力向上に向けた取組を見直し、学校全体で「質の向上」が図られることを心から期待しています。